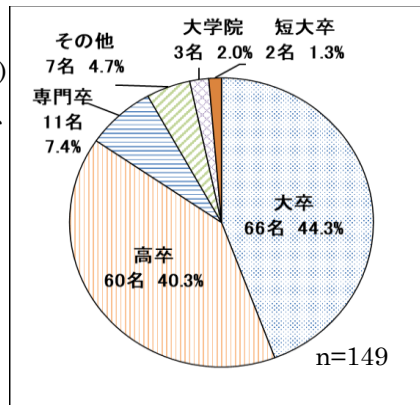


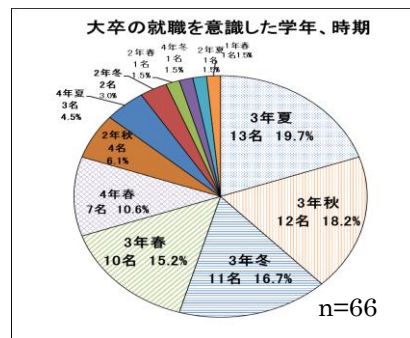
当協会が主催する「新入社員合同研修」の参加者を対象に、2012 年より「新入社員意識調査」を実施している。今回は参加者 149 名（42 社より男性 105 名、女性 44 名）のうち全員から回答を得た。（調査日：2023 年 4 月 6 日・11 日）※2022 年度を比較対象とした。

今回の参加者の構成は、「大卒」66 名(44.3%)がもっとも多く、次いで「高卒」60 名(40.3%)、「専門卒」11 名(7.4%)、「大学院」3 名(2.0%)「短大卒」2 名、その他(中途)7 名であった。

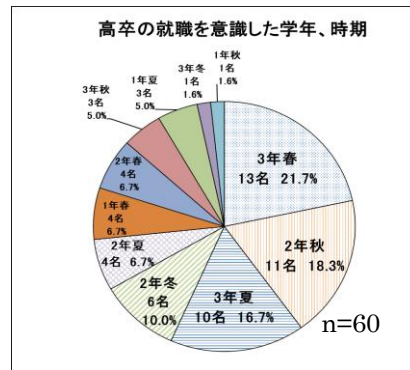


問 1. あなたはいつから就職を意識していましたか。該当する学年・時期を教えてください。

「大卒」では、「3 年夏」がもっとも多く、13 名(19.7%)、次いで「3 年秋」が 12 名(18.2%)、「3 年冬」が 11 名(16.7%)であった。



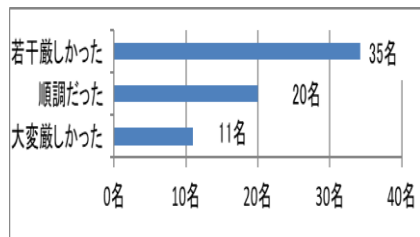
「高卒」では「3 年春」がもっとも多く、13 名(21.7%)、次いで「2 年秋」が 11 名(18.3%)、「3 年夏」が 10 名(16.7%)であった。



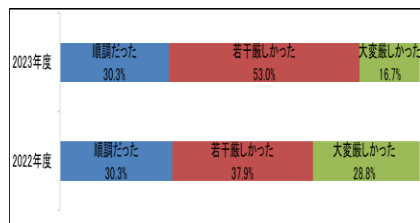
「専門卒」では「1 年秋」「1 年冬」が各々 2 名ずつが最も多かった。
「大学院」では、「1 年冬」「3 年冬」「修士 1 年冬」が各々 1 名ずつであった。
「短大卒」では「1 年春・秋」1 名ずつの回答があった。

問 2. 就職活動を振り返って（大卒）

「若干厳しかった」35 名(53.0%)と「大変厳しかった」11 名(16.7%)であった。2022 年度と比較すると「若干厳しかった」割合が増加し「大変厳しかった」の割合が減少した。



※参考：2022 年度「順調だった」30.3%
「若干厳しかった」37.9%
「大変厳しかった」28.8%



問 2. 就職活動を振り返って（高卒）

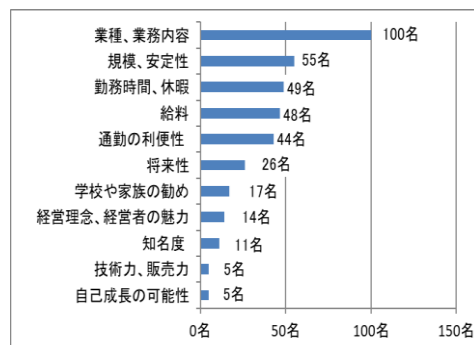
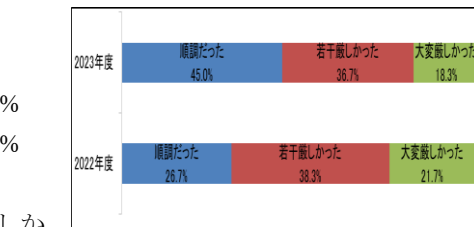
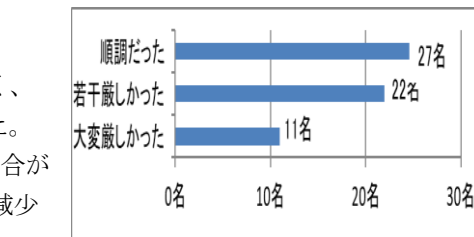
「順調だった」27 名(45.0%)と最も多く、「若干厳しかった」22 名(36.7%)であった。2022 年度と比較すると「順調だった」割合が増加し「若干厳しかった」の割合が若干減少した。

※参考：2022 年度「順調だった」26.7%
「若干厳しかった」38.3%
「大変厳しかった」21.7%

「大学院」では「順調だった」「若干厳しかった」「大変厳しかった」の割合が各々 1 名ずつとなった。
「専門卒」では、「順調だった」が最も多く 5 名の回答があり、「短大卒」では「順調だった」「大変厳しかった」が各々 1 名ずつの回答であった。

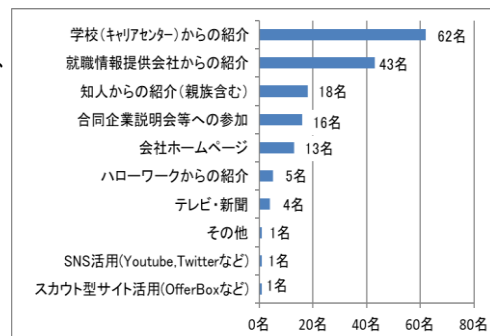
問 3. 就職先を選ぶ際に重視した点は？（3 つまで選択可）

「業種、業務内容」が 100 名と最も多く 11 年連続のトップ。以下やや差があって「規模、安定性」55 名「勤務時間、休暇」49 名等が続いている。



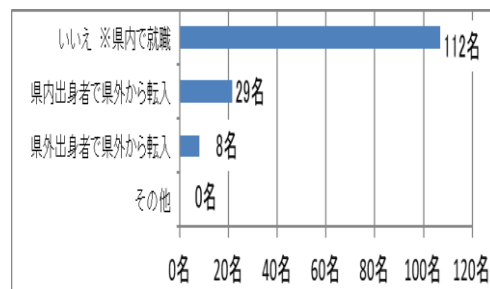
問 4. 就職先の求人情報をどのツールで知ったか

「学校からの紹介」が 62 名と最も多く、以下「就職情報提供会社からの紹介」43 名、「知人からの紹介」18 名と続く。ハローワークの利用が少ない結果となった。



問 5. 就職にあたり、県外から転入してきたか

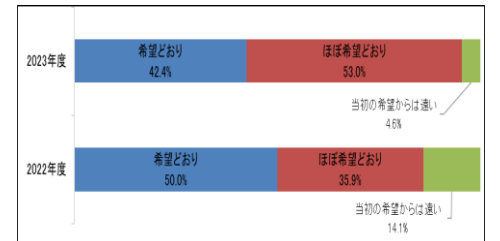
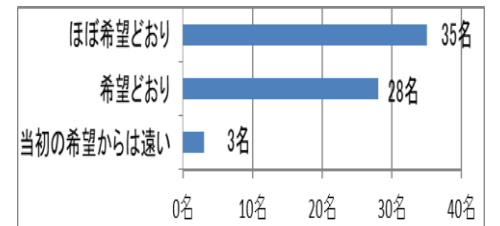
「いいえ」が 112 名と最も多く、U・I ターンは少ないことが伺える。



問 6. 就職した企業は？（大卒）

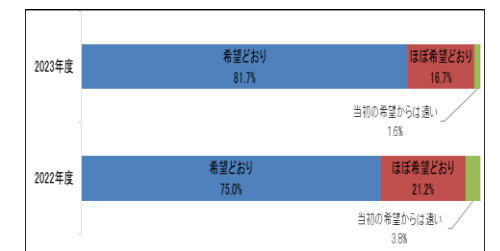
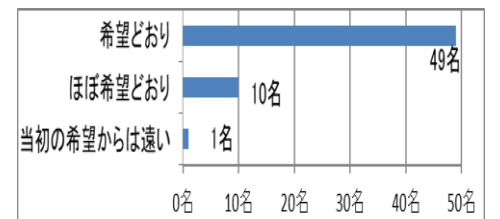
「ほぼ希望どおり」が 35 名(53.0%)、「希望どおり」が 28 名(42.4%)の回答であった。両者を合わせると 63 名 95.4%である。また、3 名(4.6%)が「当初の希望からは遠い」と回答し、こちらは低い割合であった。

※参考：2022 年度
「希望どおり」50.0%
「ほぼ希望どおり」35.9%
「当初の希望からは遠い」14.1%



（高卒）
「希望どおり」が 49 名(81.7%)、「ほぼ希望どおり」が 10 名(16.7%)の回答であった。両者を合わせると 59 名 98.4%である。また、1 名(1.6%)が「当初の希望からは遠い」と回答があり低い割合であった。

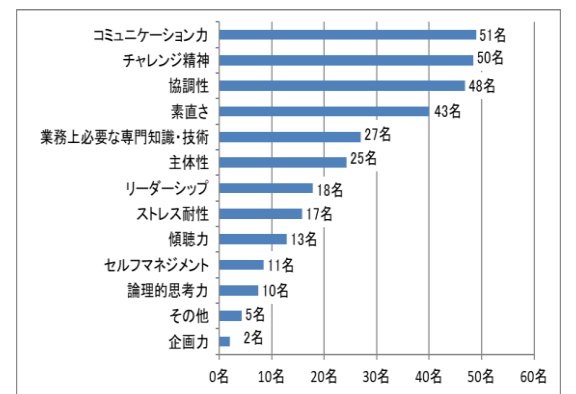
※参考：2022 年度
「希望どおり」75.0%
「ほぼ希望どおり」21.2%
「当初の希望からは遠い」3.8%



「大学院」では「ほぼ希望どおり」2 名、「希望どおり」1 名の回答であった。
「専門卒」でも「希望どおり」9 名、「ほぼ希望どおり」2 名の回答であった。
「短大卒」でも「希望どおり」1 名、「ほぼ希望どおり」1 名の回答で「当初の希望からは遠い」の回答はなかった。

問 7. 就職活動でアピールした自分の強みは？（3 つまで選択可）

「コミュニケーション力」51 名が最も多く、次に「チャレンジ精神」50 名、「協調性」48 名などが続いている。

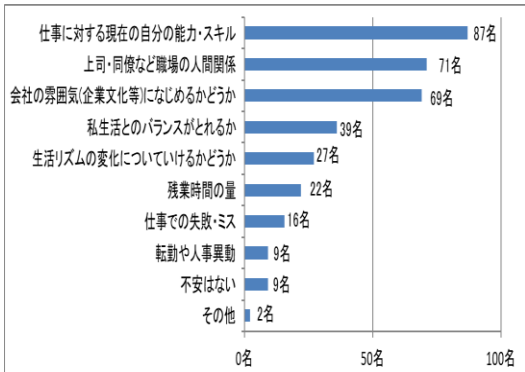


（裏面へ続く）

(表面の続き)

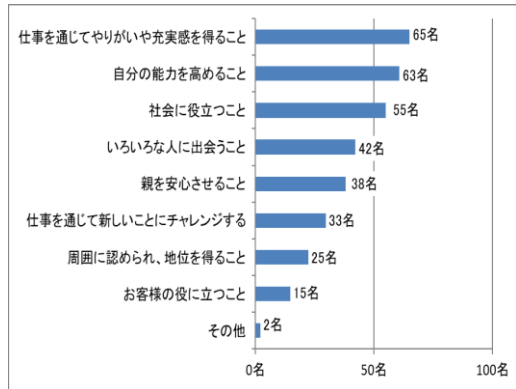
問 8. 社会人生活に対する不安(3 つまで選択可)

「仕事に対する自分の能力・スキル」87 名、「上司・同僚など職場の人間関係」71 名と続いている。「不安はない」は 9 名だけであった。



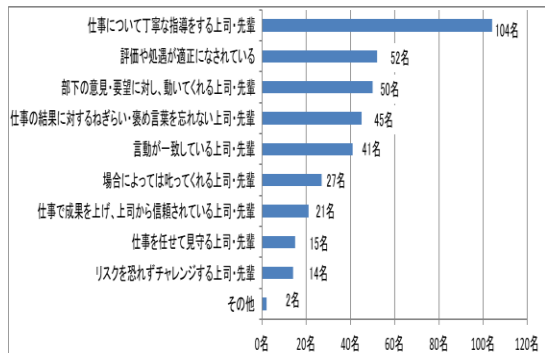
問 9. あなた自身の働く目的は？生活費を得ること以外で(3 つまで選択可)

「仕事を通じてやりがいや充実感を得ること」が 65 名、次いで「自分の能力を高めること」63 名、「社会に役立つこと」55 名、「いろいろな人に出会うこと」「親を安心させること」などが続いている。逆に「周囲に認められ、地位を得ること」「お客様の役に立つこと」は低い割合であった。



問 1 0. あなたが理想だと思うのはどのような上司や先輩ですか？(新項目)(3 つまで選択可)

「丁寧な指導をする上司・先輩」104 名、次いで「評価や処遇が適正になされている」52 名、「部下の意見・要望に対し、動いてくれる上司・先輩」50 名と続いている。



問 1 1. 仕事とプライベートについて

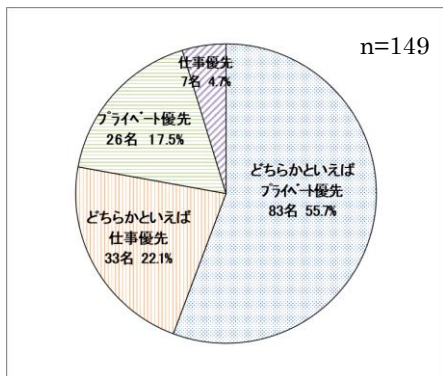
「どちらかといえばプライベート優先」が 83 名(55.7%)と圧倒的に多く、次いで「どちらかといえば仕事優先」33 名(22.1%)、「プライベート優先」26 名(17.5%)と続いている。合計すると 73.2%の新入社員がプライベートを優先したいと考えている。「仕事優先」と回答したのは 7 名(4.7%)であった。

※参考：2022 年度「どちらかといえばプライベート優先」62.9%

「どちらかといえば仕事優先」18.6%

「プライベート優先」15.7%

「仕事優先」2.8%



問 1 2. 今の就職先でいつまで働こうと思いますか？

「定年まで」が 77 名(51.7%)で最も多かった。一方、「わからない」40 名(26.8%)、「仕事に移るかも」28 名(18.8%)と続いている。「仕事に移るかも」、「いずれ独立したい」を合計すると 30 名(20.1%)が今の就職先を「いずれ離れる」としている。

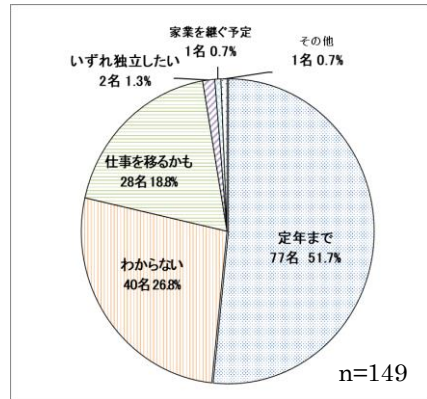
※参考：2022 年度

「定年まで」45.7%

「仕事に移るかも」23.6%

「いずれ独立したい」2.9%

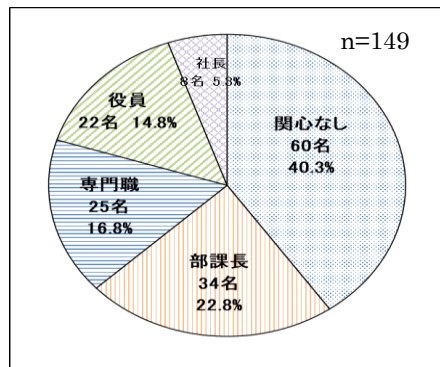
「家業を継ぐ予定」0%



問 1 3. 自身の昇進について、どこまで目指しますか？

「昇進にあまり関心がない」が 60 名(40.3%)で最も多く、以下「部課長」34 名(22.8%)、「専門職」25 名(16.8%)「役員」22 名(14.8%)と続いている。

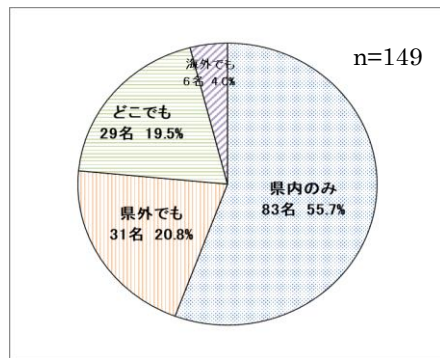
※参考：2022 年度「関心なし」43.6%



問 1 4. 働く場所について自分の考えに最も近いのは？

「富山県内でずっと働きたい」が 83 名(55.7%)で最も多く、「富山県内だけでなく県外でも仕事をしてみたい」31 名(20.8%)「働く場所にはこだわらない」29 名(19.5%)と続く。「機会があれば海外でも」は 6 名(4.0%)であった。

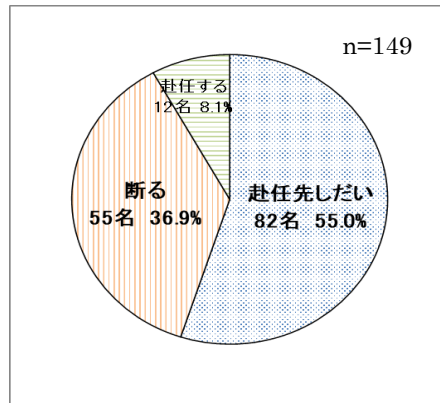
※参考：2022 年度「県内のみ」52.9%



問 1 5. 将来、あなたに海外転勤の打診があったら？

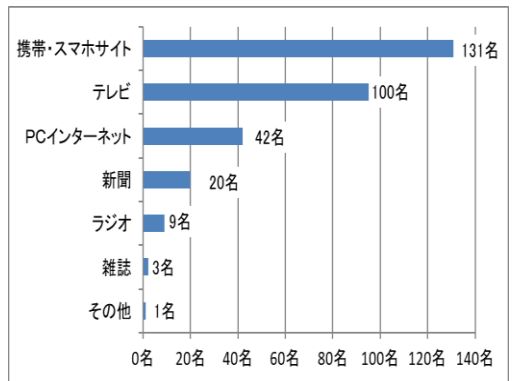
「国・地域しだいで検討する」が 82 名(55.0%)で最も多かった。「断る」は 55 名(36.9%)、「国・地域を問わず赴任する」は 12 名(8.1%)であった。

※参考：2022 年度「断る」35.7%



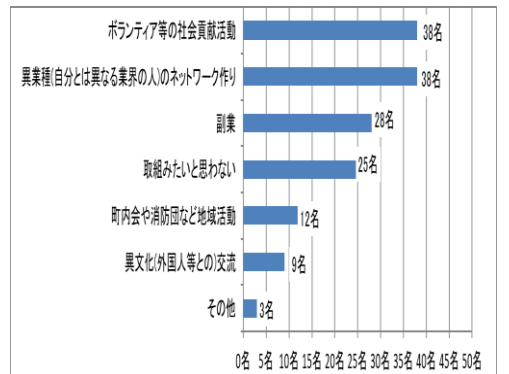
問 1 6. 日常的な情報収集メディアは？(3 つまで選択可)

「携帯・スマホサイト」が 131 名(42.8%)で、8 年連続のトップ。2012 年調査時は 4 位であったが、飛躍的に伸びている。次いで、「テレビ」100 名(32.7%)、「PC インターネット」42 名(13.7%)が続いている。紙による情報収集の比率が減少傾向にある。



問 1 7. 社外活動の関わりについて取り組んでみたいと思うものは？(1 つだけ選択可)

「ボランティア活動の社会貢献」と「異業種のネットワーク作り」が共に 38 名、次いで「副業」28 名と続いている。一方、「取り組みたいと思わない」は 25 名であった。



＜まとめ＞

- ・今年度の新入社員の就活の状況は問 2 および問 6 より、就職が若干厳しかったものの、ほとんどの人が希望した企業へ就職できていることがわかった。問 1 1 の「仕事を優先」する意識は昨年より 5.4%高くなったが、依然としてプライベート優先比率が上回っている。
- ・求人情報のツールは問 4 より、通っている学校(キャリアセンター)からの紹介が多いこと、問 5 より県内での就職が多いことがわかった。
- ・問 8 の「社会人生活の不安」を聞いたところ、問 9 より意欲はあるが、自分の能力・スキルや職場の人間関係、会社になじめるかを不安に思っており、入社後から自信をもって働けるようにしっかりとサポートしていくことが大切である。
- ・以上より、コロナ禍であっても希望する企業への就職が叶った傾向が強く、新入社員の仕事に対する期待値は高い状況にあると考えられる。また先行きが不確実な情勢で、依然として企業では慢性的な人手不足が続き、人材流出による痛手は大きいことから、早期離職を防ぐ取り組みや人材育成が必要不可欠といえる。

以 上